

課題名：環境に配慮した新しい水田施肥体系の確立

(令4～6)

内容：被覆肥料を用いた全量基肥施肥栽培は、水稻作の省力化技術として県内で広く普及しています。しかし、現在、主に使われている被覆肥料には被膜にプラスチックが使用されているため、肥料成分が溶出した後の被膜殻の一部が代かき時に水面に浮遊して河川等へ流出することによる環境への影響が懸念されています。そこで、硫黄被覆肥料や化学合成緩効性肥料等を用いて、早生から晩生の主要品種に適したプラスチックを使用しない全量基肥施肥体系を確立します。



プラスチックを含まない肥料の肥効特性を調べる培養試験



栽培試験

[環境研究室HPへ](#)

[農業研究所HPへ](#)